

共に闘う人々へ 熱いメッセージ

乳がん患者の会が本出版



おおいた乳がん患者の会「オードリーの会」(山田泉代表)が、医師・患者らの講演や座談会の模様を収録し、「ひとりのぼつちやないよ」(木犀舎刊)と題して出版、合わせてCDも出した。写真、21世紀中に発生する女性のがんの中では最も比率が高くなるとされる乳がん。手を取り合う人々の熱いメッセージが込められている。

副題は「はじめての乳 同会から発行した講演集 がんを生きるための知識 を大幅加筆・修正した。ところ」。昨年9月に 乳がん発生のメカニズム

仲間の大切さ CDにも

から治療の方法、再発・転移の予防などの最新情報や実践的なアドバイス、がんとつきあいながらの患者の暮らしと心のありようなどを紹介している。

編集した同会代表の山田さん(45)は00年、乳がん で死んだおほの骨を捨てていて胸のしこりに気づいた。「がん」の宣告

に落ち込んだが、友人や家族に支えられた。乳がんのことを調べ、何人もの医師と会ったうえ、「共に闘おう」と言ってくれた医師を探し出した。

に生徒と「いのちの授業」を開く。昨年11月に33歳で亡くなった別府市の元看護師植田妙子さんら多くの社会人が講師に招かれ、生徒らと語り合う。

「オードリーの会」は気軽に相談しあえる場を201年春、山田さんらの呼びかけで発足。名称は、がんで亡くなった笑顔のすてきな女優オードリー・ヘプバーンにちなむ。

CDは、山田さん作詞の「オードリー 私の友だち」など計4曲で100枚発行した。同じ悩みを抱えながら泣いて笑って話す仲間の大切さを歌う。

山田さんは「乳がんの知りたい情報から、告知後3年といわれて10年以上生きる人々の体験談など元気づけられる本」と話している。

死と向き合って改めて大切に思う生。山田さんは現在、豊後高田市立河内中学校で養護教諭として自らのがん体験をもと

A5判186頁、1890円。大分市や豊後高田市などの主な書店で販売する。問い合わせは木犀舎(092・833・7140)へ。